

第6回

腺腫様甲状腺腫は病理診断名として適切か？

— 濾胞結節性疾患 Follicular nodular disease —

山梨大学 医学部 人体病理

近藤哲夫

腺腫様甲状腺腫 adenomatous goiter (AG) は最もコモンな甲状腺の良性結節性病変である。両葉に大小の結節が生じ、甲状腺が腫大する。米国では Multinodular goiter (MNG) の名で呼ばれている。病理総論的には AG/MNG の結節は過形成と説明されてきた。良性病変ではあるが、結節が大きく臨床症状がある場合、悪性腫瘍が鑑別診断に挙がる場合では手術適応となっている。甲状腺癌の背景に AG の結節を伴うこともしばしばある。言わば AG はすべての病理医が経験する甲状腺病理の基本中の基本である。甲状腺結節に対する穿刺吸引細胞診においても AG の頻度は最も高い。

しかしながら AG の病理診断名に関しては多くの病理医がいくつかのギモンを抱いてきた。“腺腫様 adenomatous” とは何を意味しているのか？腺腫 adenoma に似ているというのは触診、画像、肉眼、組織いずれなのか？また“甲状腺腫 goiter” の本来の意味は甲状腺が腫大していることである。甲状腺が腫大していない単結節や顕微鏡レベルの小結節を AG と病理診断することには矛盾が生じていた。

分子生物学の発展に伴い従来から過形成とされてきた AG の結節については知見が集積してきた。過形成は複数の細胞増生からなるポリクローナル病変であるが、クローナル解析によって AG の結節の一部は単一の細胞増生からなるモノクローナル病変であることがわかった。モノクローナルが意味するのは真の腫瘍 neoplasm である。また AG の 1/4 程度に *SPOP*、*ZNF148*、*EZH1* などの遺伝子異常が存在することも判明した。

2022 年秋に WEB 公開された内分泌腫瘍 WHO 分類ではこれらの矛盾、課題を解決するため AG/MNG に対して新たな病理診断用語が定められた。病理診断名として“甲状腺腫 goiter”を使用することは止め、濾胞結節性疾患 follicular nodular disease (FND) の新用語が採用さ

れた。AG/MNG は臨床用語、甲状腺結節性病変 FND は病理用語という使い分けである。例えると消化管の“ポリープ”と病理診断名、腎臓の“慢性腎炎”と病理診断名のような関係に相当する。

AG の用語は本邦の臨床、病理に広く普及しており、FND の新用語が浸透するには相当の時間がかかると予想される。本学会でも当面の間は議論が続くであろう。

【参考文献】

- 1) WHO Classification of Tumours, 5th edition: Endocrine and neuroendocrine Tumors. 2022.
- 2) 甲状腺癌取扱い規約、第 8 版. 2019.